

地 域 再 生 計 画

1 地域再生計画の名称

みんなでつくる持続可能で快適な生活環境づくり計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

江南市

3 地域再生計画の区域

江南市の全域

4 地域再生計画の目標

江南市は濃尾平野の北部、清流木曾川の南岸に位置し、東西6.1km、南北8.8km、面積30.20km²の市域を有する都市である。地形は全般に平坦で、木曾川の恵みを受けた肥沃な扇状地であり、温暖な気候・風土と相まって、暮らしに最適な自然環境となっている。名古屋市から20km圏に位置し、公共交通機関で約20分で結ばれるなど利便性が高く、ベッドタウンとして都市化が進み、愛知県尾張北部の主要都市となっている。また、木曾川をはさみ岐阜県側の地域との交通結節点ともなっている。

本市には、地域のシンボルである木曾川をはじめ、五条川・青木川等、地域を潤し、市民のやすらぎの場となるいくつもの河川が流れている。なかでも、市北部には、木曾川の流れに沿って、緑豊かな樹林地とそれに隣接した「国営木曾三川公園フラワーパーク江南（江南花卉園芸公園）」や、総合運動公園である「蘇南公園」、水と緑のふるさとづくり北部拠点である「すいとぴあ江南」がある。それらをつなぐ遊歩道・サイクリングロードは一宮市、扶桑町、犬山市の近隣市町へも接続され、木曾川の自然を楽しむ水と緑のネットワークを形成し、広域的に利用されている。また、暗きょ化された宮田導水路の上部を利用した遊歩道・せせらぎ水路などの整備も進めており、遊歩道・サイクリングロードとともに多くの人が憩える空間を結ぶネットワークを強化する役割が期待されている。さらに、多自然川づくりを進める青木川沿いにある、ビオトープを有した親水公園「し

みず公園」では、環境学習会など自然に親しむ活動が活発に行われている。

しかし、近年では、宅地開発等の進展による緑地等の減少や雨水流出量の増加、家庭排水による河川の水質汚濁が進み、水辺環境の改善が急務となっており、住宅と工場などが近接している本市では、こうした問題は、誰もがその要因に関わる可能性があり、市民と市役所が協働で環境問題に取り組んでいくことが重要となっている。

本市では、公衆衛生の向上及び公共用水域の水質の保全を目的として、平成元年度から浄化槽設置整備事業を、平成5年度から公共下水道事業を実施してきた。しかしながら、本市の汚水処理人口普及率は66.0%（平成26年度末）と、愛知県平均と比較しても極めて低い状態であるため、汚水処理施設整備交付金を活用し、下水道の整備や合併処理浄化槽の普及など、早急に汚水処理施設の整備を推進し、河川の水質向上を図っていく必要がある。

こうした中、平成24年3月に江南市環境基本計画を見直し、平成24年度から平成33年度までの計画期間である第二次江南市環境基本計画を策定し、持続可能で快適な生活環境都市の実現を目指しさまざまな取組を進めている。こうした取組を通じて、市民と市役所とが協働で水質汚濁防止、水環境向上を進めることで、美しい水辺環境を再生し、豊かで暮らしやすい生活都市の実現を目指している。併せて、下水道に接続する際に不要となった浄化槽を改造した雨水貯留施設や、それ以外の雨水貯留施設等の設置工事費に対し補助金を支給し、貴重な水資源の有効活用を図っている。市役所や保育園などの公共施設では、この貯留した雨水を利用し、ゴーヤやアサガオなどのつる性植物を窓の外にはわせる「緑のカーテン」づくりに率先して取り組むとともに、「緑のカーテンチャレンジ」として市民にもその輪を広げている。また、「川と海のクリーン大作戦」による河川の一斉清掃や、市民が道路、公園、河川の里親になり美化活動を実施する「こうなん美化ボランティア（アダプトプログラム）」の推進、植栽・生き物の放流や小中学校のビオトープの維持管理など、市民との協働による河川の再生活動・清掃活動、水辺環境の改善運動が積極的に展開されており、市民の環境保全に関わる意識が高まっている。

これにより、身近な生活空間を安心して快適に過ごすことができ、水資源循環が構築され、快適な生活環境都市へ一歩ずつ近づいていくことで、

将来の世代へも美しい水環境を引き継いでいけるよう、市民と市役所、みんなですべて持続可能な生活環境づくりを推進していく。

(目標1) 汚水処理施設の整備促進

汚水処理人口普及率 66.0% (基準値: H26年度末)

→ 72.4% (中間目標値: H29年度末)

→ 78.8% (計画目標値: H31年度末)

※補助対象外の浄化槽の新設による向上を含む。

(目標2) 浄化槽の雨水貯留施設転用の促進

転用基数及び貯留量 388基 760m³ (基準値: H26年度末)

→ 478基 913m³ (中間目標値: H29年度末)

→ 538基 1,015m³ (計画目標値: H31年度末)

(目標3) 青木川・般若用排水の水質改善

青木川 生物化学的酸素要求量(BOD) 7.8mg/L (基準値: H26年度)

→ 7.3mg/L (H29年度) → 6.9mg/L (H31年度)

般若用排水 生物化学的酸素要求量(BOD) 15.5mg/L (基準値: H

26年度) → 14.6mg/L (H29年度) → 13.7mg/L (H31年度)

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

江南市で施行している公共下水道は、平成5年度に事業着手し、平成26年度末時点において認可区域487haのうち414.9haが整備済みである。平成26年度には認可区域を144.5ha拡大し、引き続き早期の完成を目指し整備を進めていく。

また、公共下水道認可区域を除く江南市全域において、みなし浄化槽及びくみ取便槽の廃止、高度処理型浄化槽への転換費用の補助による浄化槽設置促進を図る。これにより水資源循環の構築を進めるとともに、木曾川を始めとする河川の水質向上を図る。

5-2 特定政策課題に関する事項

該当なし

5-3 法第5章の特別の措置を適用して行う事業

汚水処理施設整備交付金【A3002】

- ・公共下水道・・・・平成23年11月に事業計画策定（変更）

[事業主体]

- ・江南市

[施設の種類]

- ・公共下水道
- ・個人設置型浄化槽

※平成30年度から環境配慮・防災まちづくり浄化槽整備推進事業の対象となる浄化槽に限る

[事業区域]

- ・公共下水道・・・・江南市高屋地区、今市場町、尾崎町
- ・個人設置型浄化槽・・江南市全域（公共下水道の認可区域を除く。）

[事業期間]

- ・公共下水道 平成27年度～31年度
- ・個人設置型浄化槽 平成27年度～31年度

[整備量]

- ・公共下水道 $\phi 150\sim 250\text{mm}$ L = 30,499m
(単独事業 $\phi 150\sim 250\text{mm}$ L = 4,769m)
- ・個人設置型浄化槽 125基

なお、各施設による新規の処理人口は下記のとおり。

- ・公共下水道・・・・高屋地区、今市場町、尾崎町 19,443人
- ・個人設置型浄化槽・・江南市全域（公共下水道の認可区域を除く。）
529人

[事業費]

公共下水道

事業費 1,427,000千円（うち交付金 713,500千円）

単独事業費 252,789千円

個人設置型浄化槽

事業費 61,410千円（うち交付金 25,629千円）

合計 事業費 1,488,410千円（うち交付金 739,129千円）

単独事業費 252,789千円

5-4 その他の事業

5-4-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

5-4-2 複数事業と密接に関連させて効果を高める独自の取組

該当なし

5-4-3 支援措置によらない独自の取組

(1) 第二次江南市環境基本計画の推進

内 容 平成23年度に制定された江南市市民自治によるまちづくり基本条例において、市民、事業者は交流しながら相互に助け合うとともに、地域課題の解決などに向けて協力し、行動するよう努めることが求められている。これを踏まえ策定した第二次江南市環境基本計画に基づいて、市民、事業者、市が協働で環境に関する取組を進め、市民1人ひとりが環境保全に関する意識を高め、さわやかな空気と水と緑のあふれる暮らしやすいまちを目指す。

実施主体 江南市

実施期間 平成24年～平成33年

(2) 国営木曾三川公園フラワーパーク江南（江南花卉園芸公園）の整備促進

内 容 木曾三川公園尾張緑地江南拠点である、国営木曾三川公園フラワーパーク江南（江南花卉園芸公園）の第Ⅱ期計画エリアの整備を促進し、ゆとりとうるおいを実感できる花と緑豊かな美しい環境を創出する。

実施主体 国

実施期間 平成15年度～未定

(3) 宮田導水路上部整備事業の促進と遊歩道・サイクリングロードの利活用

内 容 木曾川沿いに位置する、暗きょ化された宮田導水路の上部空間を利用して、遊歩道・植栽・せせらぎ水路等を整備することにより、平成22年度に全線の整備を完了した

遊歩道・サイクリングロードとともに、地域交流活動の拠点を繋ぎ、地域住民の余暇活動の場・潤い・安らぎ・憩いの空間として広く開放し地域社会の活性化を図る。

実施主体 愛知県

実施期間 平成25年度～平成31年度

(4) 水循環系の再生

内 容 一定の条件のもとで、工事費の一部を助成し雨水貯留施設等の設置を推進し、雨水流出抑制を推進するとともに、市役所などの公共施設では、雨水を利用した「緑のカーテン」づくりに率先して取り組み、貴重な水資源の有効活用を図るとともに、その普及と温暖化防止対策の推進を目的に、プランター、ゴーヤやアサガオなどの種、培養土、肥料を配布して「緑のカーテン」づくりにチャレンジする市民等を募集する。

実施主体 江南市

実施期間 平成22年度～（雨水貯留施設等の設置推進）

平成20年度～（「緑のカーテン」チャレンジ）

(5) 地域の環境保全への取組

内 容 約1,400人のボランティアが参加する「川と海のクリーン大作戦」による河川の一斉清掃や、市民が道路、公園、河川の里親になり美化活動を実施する「こうなん美化ボランティア（アダプトプログラム）」、植栽・生き物放流等の河川の再生活動、人生の記念日などに植栽を行う「家族のシンボルツリー」による緑化など、地域の環境づくりを推進する。

実施主体 江南市

実施期間 平成12年度～（川と海のクリーン大作戦）

平成15年度～（こうなん美化ボランティア）

平成24年度～（家族のシンボルツリー）

5-5 計画期間

平成27年度～平成31年度

6 目標の達成状況に係る評価に関する事項

6-1 目標の達成状況に係る評価の手法

前記4に示す数値目標に照らし、状況を毎年度、事務事業評価・施策評価を活用して調査・評価し、市民・市職員からなる「まちづくり会議」へ諮る。中間年度及び計画終了後に、所管課の連絡会議において、計画全体の達成状況の評価、改善すべき事項の検討等を行う。

6-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

	26年 (基準年度)	29年 (中間年度)	最終目標
目標1 汚水処理人口普及率	66.0%	72.4%	78.8%
目標2 浄化槽の雨水貯留施設 転用基数及び貯留量	388基 760m ³	478基 913m ³	538基 1,015m ³
目標3 青木川のBOD 般若用排水のBOD	7.8mg/L 15.5mg/L	7.3mg/L 14.6mg/L	6.9mg/L 13.7mg/L

(指標とする数値の収集方法)

項目	収集方法
汚水処理人口普及率	江南市の毎年の調査データより
浄化槽の雨水貯留施設転用補助基数及び貯留量	
青木川・般若用排水のBOD	

・ 目標の達成状況以外の評価を行う内容

1. 公共下水道事業及び浄化槽設置事業の進捗状況
2. 総合的な評価や今後の方針

6-3 目標の達成状況に係る公表の手法

事務事業評価・施策評価及び中間評価・事後評価の内容を、江南市秘書政策課のホームページ及び広報紙により公表する。

6-4 その他

該当なし

7 構造改革特別区域計画に関する事項

該当なし

8 中心市街地活性化基本計画に関する事項

該当なし

9 産業集積形成等基本計画に関する事項

該当なし